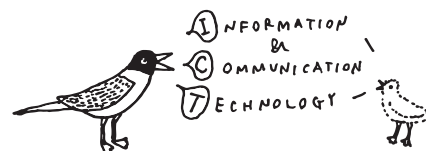


Vol. 144

CONTENTS

- 【コラム】「情報と職業」の意義を見つめる…高橋 尚子
 【解説】大学の情報システム教育と 2025 年度問題の展望…中鉢 直宏
 【解説】「情報」個別入試への道…石光 俊介

COLUMN
「情報と職業」の意義を見つめる

高校「情報科」の教職課程に、「情報と職業」という分野が独立して 1 科目だけ必修として存在する。筆者は女子大で 15 年間担当してきた。例年 25 名から 50 名程度だが、2020 年には 100 名近い学生が履修した。そのうち情報科教員を目指す学生は 10% 前後で、大多数が数学科教員や IT 企業への就職を目指している。

授業では、情報通信産業の位置付けや職種・仕事・能力開発、他業界で情報にかかわる仕事、女性や若者の就業状況などを解説している。1 人でも多くの学生に、情報通信業界の理解を深め、イメージを良くしてもらうことを密かな目標にしている。初回の授業では業界のイメージを書いてもらい、最終回の授業でイメージアップしたかどうかのアンケートをとっている。その結果平均で、イメージが良くなったという学生は 40% 程度、悪くなったという学生は 10% 以下、半数は変わらないという回答である。

また、統計調査や白書を利用して男女格差を取り上げているが、15 年間ほとんど変化はない。男女共同参画社会とは名ばかりである。ようやく、女性も定年まで働き続ける兆しが見えてきたくらいだが、給与格差は歴然と残り、管理職や経営者の女性比率が自然に増える状況にない。これに対し、女子学生の反応は薄く、政府が掲げる目標が非現実的に感じられる。この 3 年間でテレワークなど多様な働き方が試されたものの、また元の対面に戻り始め、改革が実現されたとは言えない。男女が同格に社会にかかわり、ICT が職業・就業をひっくり返すまで、続けるしかない。



高橋尚子（國學院大學）（正会員） n.takahashi@kokugakuin.ac.jp

本会教育および会誌担当理事を歴任（2019 年～2023 年）。大学時代に女子大初のマイコンクラブを結成。女性 SE 第一期生として富士通入社、その後 ASCII でビジネスパソコンスクール開校、OA インストラクタを経て独立。1995 年から大学で非常勤講師を始め、2007 年から國學院大學経済学部で情報教育に就く。



イラスト終了のご挨拶



長年にわたり担当させていただいておりました本コラム「べた語義」のイラストですが、一身上の都合により本号への掲載で最後となります。編集委員会の皆さまにはこれまで貴重な機会をいただきましてありがとうございました。読者の皆様におかれましても、引き続き情報処理学会誌へのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

Miyu Kuno（イラストレータ）

Miyu Kuno さま

長きにわたる「べた語義」へのイラストのご提供をありがとうございました。

Kuno さまには 2011 年 4・5 月合併号から足掛け 12 年以上にわたり「べた語義」に素敵な彩りを加えていただきました。読者の皆様は、「べた語義」といえばあのロゴとともに、記事の右肩に添えられた小鳥たちの優しい筆遣いをよく思い出されるのではないのでしょうか。さりげなく静かな佇まいの絵でありながら、描かれた小鳥のみなさん（時折ペンギンだったり人だったりしましたが）は、本文と一体となり読者にメッセージを伝えておりました。あの小鳥たちがいなくなるのは、やはり淋しいものがあります。

いずれにせよ、Kuno さまのこれまでのご貢献に心から感謝を申し上げますとともに、今後のご活躍を切にお祈りいたします。どうもありがとうございました。

編集委員一同